

発表タイトル	GIS利用により現出される歴史地名・地名の連関性と分布例 —付・『大日本地名辞書』を腑分けして見えてくるもの—
発表者所属名	日本文学研究専攻 准教授
発表者氏名	相田 満

[要旨] GIS 情報の利用により立体的に浮かび上がる事例の中から、これぞという典型的なものを見つけ出すことは決して容易ではない。しかし、それでも実地踏査を行うだけでは見えてこない様々な事象のシミュレーションを、地名という抽象的概念で一括りにし、その分布を GIS システムで関連づけることが可能になったことは確かだろう。しかし、幾度もの試行の中から、稀に現れる有意の「物語」が紡ぎ出されたことの発見は、必ずしも検索者の知識・興味から演繹的に導き出せたものとは限らないのが実情である。しかし、GIS を利用するツールのインターフェイスの使い勝手の向上により現出される有機的関連性には、「運」のような偶然が大きく左右しているといっても過言ではない。

ここでは、『大日本地名辞書データベース』（桶谷猪久夫氏構築データを基に相田満・矢澤由紀が増補・整備を行ったもの）データを使用して見つけ得た連関性のある地名の分布などを中心に興味深い事例をいくつか紹介したい。内容は以下の手順による。

◎地名と名字の相関性の検証実験

日本の地名が苗字と関係深いということは、よく言われることではある。では、実際のところはどうか、『大日本地名辞書』を使用して、そのことを検証してみたい。

◎地名と知財

近年の動向として、「地名ブランド」という知財のオリジナリティ視点から「日本らしさ」を主張する重要な材料となり得るのではあるまいか。この視点から、海外における日本地名を標榜するブランド事例を紹介する。

◎GIS 情報との組み合わせによる連関性の発見

GIS 情報と地名との組み合わせによる検証作業は、思いもよらない知見を我々にもたらしてくれる。最後に、これまでに見つけ得た事例から 3(4)例を紹介する。なお、[東照宮データの発見]③の「東照宮」のレイラインの発見は大東文化大学大学院生 Oleg Primiani の指摘による。

- ① 狐の地名と狸の地名
- ② 「瑞穂」の地名
- ③ 氷川神社と東照宮—神社のレイライン—

本稿は、平成 27 年度「研究成果公開促進費」出版助成『時空間とオントロジで見る和漢古典学』および、JSPS 科研費 23240032（代表・相田）の一部です。記して深謝申し上げます。